

正しく「考える」ために

学校長 下村 昌弘

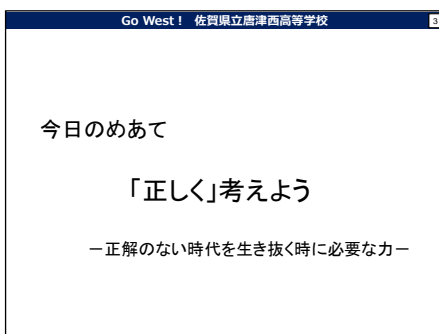
全校の皆さん、おはようございます。楽しかった夏休みが終わりました。今年の夏はどうでしたか。熱中症リスクが全国3位の佐賀県。暑さとの戦いでもあったと思いますが、体調管理、学習管理はできたでしょうか。

では、2学期の始業式に当たり、“節目の儀式”ということで、気持ちを切り替える意味で、私から少し話をしたいと思います。今日は授業がありません。私の話を授業だと思って、メモを取りながらしっかり聞いてください。

まずは雑談からですが、戦後77年を迎えた8月15日、日経新聞は衝撃的なトップ記事を載せていました。

見出しは「偏差値時代 終幕の足音」です。全体の論調は推薦型や総合型の入試が多くなり、大学教育の在り方も変わるべきだというものでした。終戦記念日にこんな記事をトップに載せている点に強いメッセージ性を感じました。

高校の立場から言わせてもらえば、大学入試では、「あなたの考えを述べよ」といった答えがいくつもありそうな問いが増えてきていて、思考力や学習への意欲を多面的に評価されるから、いっそう「考える力」を鍛えないといけないなといった感じです。



そこで今日のめあては「正しく考えよう」です。正しく考えることが正解なき時代でもその核心に近づく方法です。「正しく考える」とはどういうことか、今日の話が終わったときに自分でこたえられるようにしてください。

実は、私は昨年までの2年間、小中一貫の義務教育学校に勤めていました。初めての経験でしたが、特に小学生と日常的に接するのはとても考えさせられました。

小学生の子どもたちから初めてもらった質問は「答えは何ですか」というものでした。問いを投げかけて何人かの生徒が自分の考えを勢いよく言った後は、「先生、答えは何～？」でした。

日本の入試はこれまでは確かに知識偏重型といわれていました。そうした試験に対応するために

は、勉強も必然的に「正解」をゴールとするものになります。

大学入試や学校の試験で「正解」を目指すのは当たり前です。いつの時代も「正解」へ至る道筋を理解する学習を中心にしてきましたし、今の君たちもおおむねその傾向は変わっていません。

しかし、いきなり「正解」に飛びつこうとする態度は、クイズ大会ならいざ知らず、今の実社会では使い物になりません。

学問や実際の社会生活での「正解」は、テストで選択肢の中から1つ選ぶような「正解」ではないことがたくさんあります。「今日の夕食の献立に正解がない」と同じです。むしろ重要な課題ほど正解がないことが多かったです。では、正解のない時代を生き抜く時に必要な力とは何なのでしょうか？

たとえば、入社試験の面接の「お題」を紹介してみましょう。

Go West! 佐賀県立唐津西高等学校

【広告代理店】  
テレビ・ラジオ・新聞・雑誌のない時代の広告はどうあるべきか？

【住宅メーカー】  
空き家1万8000件時代の住宅とは？

【宅配会社】  
過疎地域やドローン・ロボット時代の物流について

【空調企業】  
環境変動時代のエネルギーや生活環境とは？

× 正解に飛びつく

○ 正解を導く過程・失敗をした時の対処法

→ 正しく考える

広告代理店・電通。今やネット時代です。「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌のない時代の広告はどうあるべきか？」住宅メーカー・積水ハウス。少子高齢化の時代です。「空き家1万8000件時代の住宅とは？」宅配業者・クロネコヤマト。「過疎地域やドローン・ロボット時代の物流について」空調企業・ダイキン。「環境変動時代のエネルギーや生活環境とは？」。どれも今までなかった問題ですし、正解がもともと準備されているものでもありません。

ですから「いきなり正解に飛びつく」のではなく、「正解を導く過程」や「失敗をした時の対処法」こそが大切、つまり「正しく考える」訓練をしっかりと積み重ねておくことが大事なのです。

そこで、私たちはどのように考えて「正解かどうか」あるいは「完全な正解でなくとも、できるだけ正解に近いものになっているかどうか」、問題の核心に迫れるよう、その判断の仕方について一緒に考えてみることにします。

Go West! 佐賀県立唐津西高等学校

A君の作文

① 8月3日、家族で海に行った。② 楽しかった。

事実判断 ...①文め  
事実かどうかの証拠・根拠を探す。  
正解(正しさ)は一つ。

価値判断 ...②文め  
判断する主体の数だけ正解がある。  
A君にとっては正解。なぜそうなのか理由を説明する必要あり。

私たちの思考、ものの見方・考え方には大きく、「事実判断」と「価値判断」があります。

例えば、A君の作文、「8月3日、家族で海に行った。楽しかった」という文で考えてみることにします。

「8月3日、家族で海へ行った」ことは“事実”で、「楽しかった」はA君が感じたこと、すなわ

ち“価値”です。

そこでこの文の「正しさ」について考えてみます。

まず「事実判断」について、①文め「8月3日、A君が家族で海に行った」ことが事実であったかどうか。これについてはその事実があったかどうかを調べればいいわけです。

例えば、日付の入った切符、写真、目撃者、そういう証拠・根拠があれば、その事実は正しい、すなわち「正解」というわけです。そして答えは1つです。

「なんだ、そんなの当たり前だ」と思うかもしれませんが、歴史的な事実はどうでしょう。

秀吉が名護屋城を建築してから、築城法が全国の大名に広まった、なんていう事実は、本当にそれがあったかどうか、なぜそうなったのかを検証するのは案外難しいものです。歴史の教科書が書き換えられるのは実際にあることです。鎌倉幕府の成立年など、私が受験した頃と今では教科書は変わっているのではないのでしょうか。

ではもう一つ、「価値判断」について。

②文め、A君が「楽しかった」かどうか。これは「正しい」のでしょうか。

この場合、判断する主体の数だけ、正解がありますね。ある人にとっては家族で行くのは「つまらなかった」も正解なわけです。感情はひとそれぞれに違いますから。

つまり、「事実の認定（事実かどうか）」に関する問題は、「真」か「偽」かの判断とその確実性という形で考え、その証拠・根拠を並べてどういう状況、どういうことを説明すればいいわけです。これを同義関係と呼びます。

それに対し、「善・悪」、「美・醜」といった価値判断を含む問題については、何とおりの正解が存在することになります。ですから、正しさ、つまりより説得力を持たせるためには「なぜそのように感じるのか」を他人に分かるように説明していくことが大事になります。これを因果関係と呼びます。

Go West! 佐賀県立唐津西高等学校

「事実判断・価値判断」する時の基盤となる力

自分の頭で

「問う」  
「考える」  
「評価する」 力

“知なき勇は卑なり”

× 正解を覚える  
× 知識はネットで調べれば済む

この事実判断と価値判断をする、つまり同義関係と因果関係を調べる時に、その基盤となるのが、自分の頭で「問う」「考える」「評価する」力です。

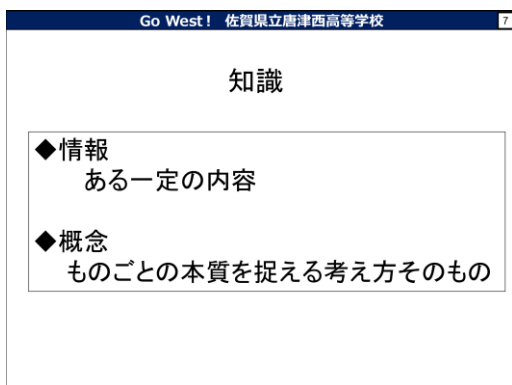
しかし、「正解を覚えよう」とする姿勢は、問いの幅を狭くするし、何よりも「考える」ことを放棄し、「評価・判断」を人任せにしているという点で、人として、とても“怠惰”で“卑しい”行為だと言えます。

「知なき勇は卑なり」です。2学期にはやらせたい言葉です。「知なき勇は卑なり」。自分で考えず、知識もないくせに、偉そうにするのは野蛮な生き方です。

教科書に出てくる知識の多くは、いまやネットで検索すれば簡単に得られるレベルです。だから「知識」は暗記しなくてもいい、それよりも、考える力が重要だ、と言われもします。

確かにそういう側面もありはしますが、実は「知識」や「技能」を身につけようとする時、実は、

私たちはそこにまわりついている「考え方」も同時に学んでいるのです。

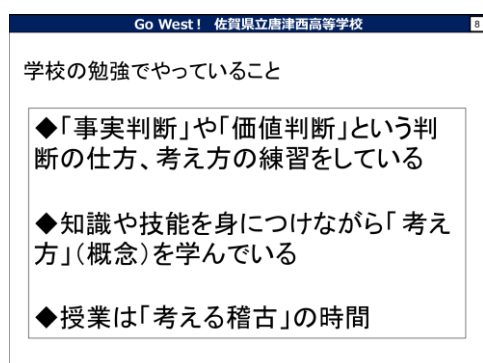


知識には「ある一定の内容である“情報”」という性質と「物事の本質をとらえる考え方そのもの、つまり“概念”」という二つの性質があります。

“知識”は検索すればよい」というスタイルを重視しすぎると、ものごとを別々の“情報”と捉えてしまい、まとまった“概念”として理解する、あるいは、何かを順序だてて系統的に理解するという力がひどく低下する危険性があります。

“知識”や“技能”はネットで検索できるからと、それらを軽視してはいけません。大切なのは授業で習う“知識”や“技能”は、“考え方の練習をしているのだ”ということなのです。

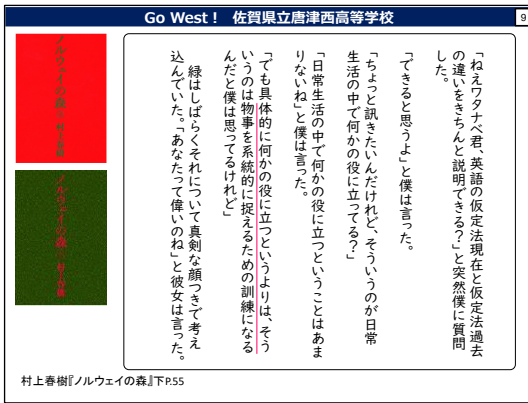
“過去”の助動詞『けり』には“詠嘆”の用法がある」という知識が大事なのではなく、なぜここでは「詠嘆」なのか、なるほど、その前後の文脈に心の動きを示す言葉があるじゃないかと思抜く力なのです。



そういう意味で、学校の勉強というのは大部分が、

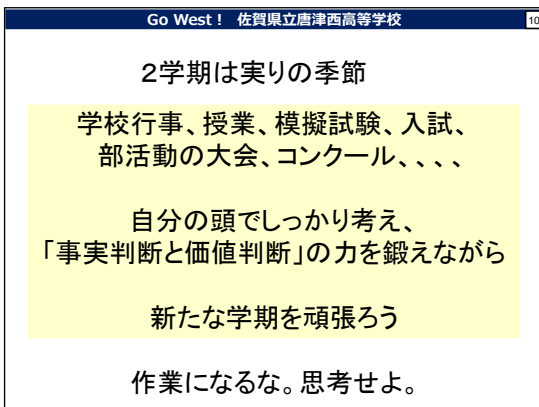
- ① 「事実判断」や「価値判断」という判断の仕方、考え方の練習をしている。
- ② 知識や技能を身につけながら「考え方」(概念)を学んでいる。
- ③ 授業は「考える稽古」の時間であるわけです。

「仮定法過去」にせよ、「因数分解」にせよ、遠い将来、そのこと自体は必要がなくなる人がたくさん出てくるのかもしれませんが、でも、「仮定法過去の考え方」や「因数分解的なものの見方」、その考える道筋を自分の中に刻むことが尊いわけです。



私の好きな小説、村上春樹の『ノルウェイの森』に次のような一節があります。勉強の意味をさりげなく言い表してとても好きな個所の一つです。

「ねえワタナベ君、英語の仮定法現在と仮定法過去の違いをきちんと説明できる？」と突然僕に質問した。「できると思うよ」と僕は言った。「ちょっと訊きたいんだけど、そういうのが日常生活の中で何かの役に立ってる？」  
 「日常生活の中で何かの役に立つという事はあまりないね」と僕は言った。「でも具体的に何かの役に立つというよりは、そういうのは物事を系統的に捉えるための訓練になるんだと僕は思ってるけれど」  
 緑はしばらくそれについて真剣な顔つきで考え込んでいた。「あなたって偉いのね」と彼女は言った」



さて、2学期は一番長い学期です。たくさんの勉強、たくさんの経験をする期間です。実りの秋というように、学んだこと考えたことが自分の力になる学期です。

暑い日がまだしばらく続きますが、今日はその節目として、「考える生活をするのだ」という覚悟を決めて2学期をスタートさせてもらいたいと思い、「正しく考えるために」という話をしました。事実判断・価値判断、同義関係・因果関係、これが今日のキーワードです。

全校の皆さん。これから文化祭をはじめいろいろな学校行事、授業、模擬試験、部活動、忙しい毎日が始まります。自分の頭でしっかり考え、「事実判断と価値判断」の力を鍛えながら、新たな学期を頑張りましょう。くれぐれも作業にならないように。「思考」です。

長くなりました、みなさん、真面目に聞いてくれてありがとうございました。以上で私の話を終わります。